

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 10月 27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3473900599		
法人名	社会福祉法人 成寿会		
事業所名	グループホーム大浜		
所在地	広島県呉市豊浜町大字大浜字深田482-1 (電話)0846-68-2626		
自己評価作成日	平成22年10月27日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204037&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204037&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日常生活の中で利用者の意思及び人格を尊重し、家庭の延長として、その人らしい安心した生活ができるよう支援している。 利用者の体調管理及び下肢筋力をつけるため、立位訓練、散歩、体操等を取りいれている。天候の良い時には1対1で散歩に出かけ、会話をするようにしている。 季節行事としてお正月、桜の木の下でのお花見、夏祭り、成寿園まつり、クリスマス、餅つき等をして利用者に喜んでいただけるように取り組んでいる。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>一年前、待望の本土との橋が開通し、離島ホームは呉市街地とも陸続きとなり、島内の道路も整備され、家族の訪問や買い物、専門医への受診にも便利となりました。小学校の空き校舎を利用した居室や共用の食堂(リビングを兼ねた)も、地域密着施設の充実を目指されている施設長を中心に職員の協力で年月の経過とともに馴染みの雰囲気も培われています。一階の空き教室を利用した陶芸教室では利用者の作品が色々と形作られています。豊かな自然環境を生かした散歩や外出支援は開設以来継続され、地域の方々と親しく交流ができる一因となっています。秋祭りにはホームとして無料喫茶コーナーを開き、地域の皆さんに喜ばれ親交を深められた。</p>
---

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	恵	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>理念は大きく書き出し、常に職員の目の届く所に表示している。</p> <p>朝礼時、職員全員で唱和している。</p>	<p>管理者を中心に職員は地域に密着したホームの運営方針を充分理解し、理念を共有した自然体での支援が続けられている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>地域の祭りには参加、見学している。当園に保育所の子供さんが慰問に来られます。</p>	<p>地域の一員として行事には可能な限り参加している。</p> <p>今年の秋祭りには、無料喫茶コーナーをホームで担当する等積極的な関わりをし、地域の多くの方に喜んで頂いた。保育所の子供さんの訪問は利用者の大きな活力になっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>常に解放し、自由に見学を実施</p> <p>地元の診療所への受診により、支援にの理解に繋がっている。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2か月に1回の割合で実施している。</p> <p>地域から当園についての要望等も伺い、それに添うよう心がけている。</p>	<p>運営推進会議は家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、呉市福祉保健課、ホーム職員等が出席して、主にはホームの現状、行事の案内や報告等をしている。地域より寄せられる些細な意見にも傾聴し、ホームと地域との関わりの参考材料としている。</p>	
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に参加して頂き、相互に連絡し合っている</p>	<p>呉市介護保険課の方は毎回ではないが出席されるが、地域の豊島支所の福祉関係部に案内はするものの未だ参加を頂いていない。保険関係の手続きには連絡を取り合っている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。但し、安全上必要な場合は家族の同意を得ている。</p>	<p>現状では身体拘束は皆無である。但し学校を改造された施設であるため、2階3階への階段は利用者が単独で行動するには危険が伴い、階段への出入口は施錠がされている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>合同研修、事業所研修で学び、日常の介護業務の中で、些細なかたば、声かけ、態度に注意を払い虐待防止に努めている。</p>		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	恵	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業者内の研修会で学習している。家族から相談があれば対応します。		
9		契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に当園に見学され理解して頂いている。また、ご家族に来園、面会時を利用して、苦情・疑問がないかお尋ねしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中で常に利用者の声に耳を傾けカンファレンスや日々の申し送りで意見交換を行っている。	入所当初より、担当職員が決められ、本人、家族との親密感が生まれ、担当職員がモニタリングに参加し、実情に合わせたケアプランの作成に役立っている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務や申し送りの中で意見を述べる必要があれば申し出るようにしている。	日々の申し送り、職員の休憩時間中のコミュニケーションで自由な会話がされ、その中からも参考意見をくみ取っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に1度、理事長視察があり要望を聞いている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の合同研修、個人研修や法人外の研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人の事業所とは頻りに交流しているが他法人の事業所との交流はできていない。		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	恵	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>契約時には丁寧に説明を行い、入所当初は十分に声をかけ合い少しでも早く慣れて頂けるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	同上		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当グループホームのみならず特養、老健の入所も視野に入れて本人に適したサービス、家族からの要望も取り入れるようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>常に傾聴し人生の先輩としてアドバイスを受け日常生活の中で取り組んでいる。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の意見をよく伺ってそれに添って日常の声かけや生活を行うよう心がけている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>島内の方は受診時に馴染みの方との言葉かけ、島外の方は面会時ドライブを兼ねて外出や近くの散歩を一緒に勧めている。</p>	<p>かかり付け医をなる丈今までの医師とし、関わりを継続し同行受診し、近隣のお寺を散歩の目的地にして、度々訪ねて喜ばれている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>共同生活の中で本人の意思を尊重しながら、他者との交流を図っている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>連絡があれば相談にのっている。</p>		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	恵	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	プランの立案時必ず本人の希望を聞くようにして反映させている。	歩行困難な帰宅願望の強い男性入居者(88歳)の支援に歩行の生活リハビリを取り入れ、声かけに努め、歩行力が進まれた。自室で鉢植の植物を育てられる等前向きな生活をされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントに力を入れ、本人の生活を把握するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々発する言葉、行動、身体状況等を記入し、職員間で情報の共有を図っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	申し送りやケアカンファレンスで意見を求め、現状に即したプランを作成している。	日常接点の多い担当職員の意見を充分に取り入れカンファレンスを行い、家族や関係者の意見を反映した短期、長期目標のある介護計画書が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース日誌に毎日記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム、特養、老健、ショートステイ等、家族と本人の希望に添った支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員の方から情報を頂いたり、ボランティアの尉問をうけている。火災訓練には消防署にも参加頂いている。中学生の体験学習を受け入れ、利用者とは触れ合っていた。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と本人と相談してかかりつけ医や専門医を設定している。	本人と家族の意向をもとに入所以前からのかかりつけ医をなる文継続されるよう努めながら、専門医を決めるようにしている。	

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	恵		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	隣接している老健の看護師に、特変があれば相談している。			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	連携している。			
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	受診時、家族を含め主治医とカンファレンスを行い、本人と家族の意見を取り入れたターミナルケアについて話し合っている。其の結果や方針について職員に周知・徹底している。	入所時には重度化やターミナルについて話し合いは行わず、高齢化や病変が重度化された時点で本人、家族と主治医とのカンファレンスを行って方針を決めている。	急速に進む社会情勢(高齢化)を考慮され、入居当初より利用者や家族との話し合いやターミナルケアについての知識や申し合わせ等職員への研修の検討も望まれます。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	機会教育を実施しているが、定期的には行っていない。			
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	避難訓練をしている。朝礼時に火災発報の唱和をしている。	隣接する老健と合同の避難訓練を殆どの職員の参加で実施している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	声かけ、対応に不適切なことがあれば、その場で注意をしている。記録は関係者以外には公表していない。	利用者の尊厳を重点とした言葉かけがされているが、馴染みすぎによる軽言が交わされることがあるので、職員同士で注意合っている。		
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	日常の会話の中から思いや希望を聞きだしている。			
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	その人のペースも程度次第でリズム正しい生活ができるように、又は、取り戻せるように支援している。			

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	恵	
			実施状況	外部評価
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服の選択も本人の希望を聞いて着用してもらっている。本人の希望があれば理美容質を利用している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、後かたづけ等一緒に行っている。	特に3階のグループでは認知症はあるものの日常動作に於いては行動的なので、調理の下準備、盛り付け、後かたづけ等競って手出しされるので、順番制にして楽しみとされている。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食摂取量のチェックで食欲を測り、低下の方には栄養補助を検討、嚥下困難な方にはトロメリン対応、ミキサー食、ゼリー、粥で対応、水分補給は充分気をつけている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方は自分で義歯を外して洗って頂く、出来ない方は職員が介助する。夜間のみ義歯を預かり洗浄剤につける。自歯の方は月に一度の訪問歯科で口腔ケアを受ける。	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来るだけ快適に過ごしていただけるよう、布パンツに切り替えができる方はしている。	プライバシーを大切にしながら排泄パターンを把握しトイレ、誘導をして、布パンツにする努力をしている。
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日便秘状況確認し、水分補給と散歩、運動等に努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表で曜日や時間帯の変更はできるが、職員体制上、夜間は難しい。	入浴は1日おきとしているが、皮膚疾患、失禁等必要時はいつでも入浴してもらう。入浴を拒む方への対応には常時工夫が必要で、職員が共有しながら勤めている。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テレビを観たり、ソファーでくつろいで頂いている。また、エアコンや寝衣の調整で安眠しやすい環境づくりが心がけている。	
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録や申し送りにより職員に周知している。不明の場合は薬処方確認する。	

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	恵	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、季節行事を取り入れたり、利用者個々の能力を生かして手伝いをさせていただく。(調理、洗い物、テーブル拭き、食器拭き等)		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調と天候の許す限り、散歩は日課としている。	殆どの利用者はホームからの外出を望まれるので、天候の許す限り体調に合わせて、散歩支援はできるだけ取り入れている。車での買い物へも出掛けられ、楽しまれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理は職員がしているが、買い物ツアーでお金を使う喜び、選択する楽しみの機会を作っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら手紙を書かれる方は限られているが、その方と一緒に郵便局へ同行している。電話の希望があれば、家族に相談してかける。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に障子を張り、柔らかな光で入居者を和ませている。又入居者により草花を活けて季節感を感じる事ができる。	廃校の教室を利用した共用スペース(リビング)は窓が広く、採光は充分でゆったりしている。壁面は入居者の作品が飾られ、部屋の隅々まで生活感を演出する努力が覗かれた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアや食堂にソファを置き、各自でくつろいで頂ける空間を作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望の方には馴染みの家具を搬入して利用して頂いている。思い出の写真や自分で作った陶芸作品を飾っている	自宅で使用されていた家具が持ち込まれ、家族の写真や自作の絵画等飾られている。陶芸教室で作られた作品が飾られた部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物はバリアフリーとし、廊下、トイレ浴室等は手すりをつけている。トイレは大きく表示し、居室に大きな名札を表示している。自室への誘導を示す矢印やマスコット人形等下げて表示している。		

グループホーム大浜

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム大浜

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

( 様式 2 )

事業所名 グループホーム大浜

作成日 平成 22年 10月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	隣接している施設の医師と看護師及び主治医に依存している面が強い。処置対応が遅くなることがある。有事即応体制を整える必要性がある。	全ての職員が応急手当と初期対応ができる。	急変時の対処要領を作成し、職員研修を実施する。	6か月
2	13	利用者の接遇や声かけ等に職員の知識や経験による差がある場面がある。	人材の育成に努め、より一層家庭的な温かい支援をする。	研修（法人内、外）を受けられる機会を可能な限り多くする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。